

城北コミュニティセンター 市長と語る会

日 時：令和 6 年 8 月 14 日（水） 午後 1 時 30 分～3 時

場 所：城北コミュニティセンター

参加者：12 名

担当者：市長、地域担当職員 治郎座（市民課）、大関（都市計画課）、
中原（秘書課）、鳥井（秘書課）

1. あいさつ

（事務局長）

令和 6 年度「みんなでまちづくり。市長と語る会」を開催する。最初に城北コミュニティ会長から挨拶申し上げる。

（会長）

皆さんこんにちは。せっかくのお盆休みではあるが、なかなか市長とお会いすることはできないので、この日に決定した。時間は短いが、内容をしっかりと話したい。今回、当初の役員会の段階で、私からの質問があまり皆さんに周知されていなかったが、デマンド交通についていろんな話をしたいということで、市の担当者に来ていただいた。担当者の方は次の予定があるということで、挨拶も短めに切り上げる。よろしくお願いします。

（市長）

皆さんこんにちは。日頃から城北コミュニティの皆さまには本当にお世話になり、市政運営に対するご理解とご協力、ご支援をいただくとともに、今日は暑い中、また、お盆の時期にお集まりいただき、心から御礼申し上げます。

今日は忌憚のない意見をいただきながら、それに対して私どもも答えていきたいと思う。丸亀市も人口減少、少子高齢社会に入っているが、それを振り払うような、まちづくりにしっかり取り組んでいこうと考えているので、今日はよろしくお願いします。

2. テーマによる意見交換

（事務局長）

それでは意見交換に移らせていただく。まず市長から、今年度の重点プロジェクトについて説明をお願いします。

（市長）

それでは今年度の予算の特徴について、説明させていただく。人づくりが 1 つのキーワードである。

今年度の予算は、6 月議会の補正も終わり約 709 億円。709 億円というのは丸亀市では過去最高の予算になっている。

その特徴を簡単に言うと、投資的経費の建設費が 200 億円を超え、この部分が大きなウェイトを占めている。これは学校関係の建設費が大きく、今年度は 14 の学校関係の予算をつけている。大きいところでは、城東小学校、城坤小学校、城南小学校、綾歌中学校の体育館などがある。

過去に鉄筋コンクリートの建物をどんどん建てていった時期があり、それからちょうど 50 年 60 年を迎えるので、順次建て替えや大規模改修を行っているところである。約 15 年かけて、一挙にやっていこうと考えている。

そうした中、人手不足や人件費・材料費の高騰によって、建設費がびっくりするぐらい上がっているのが現状である。例えば、城北小学校を直したときは全部で約 25 億円ぐらいだったが、土器川沿いにある城東小学校は、台風等による水害対策として、地盤改良を含め約 50 億円の予算がかかる。城北小学校の倍になっている。

「人づくり石垣プロジェクト」と銘打って教育委員会がこれから 5 年間取り組むプロジェクトの紹介をさせていただく。6 年前に崩れた石垣を 8 月から 1 個ずつ丁寧に 1 万 1700 個を積み上げていく。それになぞらえ、「人づくり石垣プロジェクト」をこの春からやっている。

コロナの約 3 年 4 か月の間に、学校はかなり休校した。それによって不登校の子どもが約倍ほども増えた。全国的にも同じ傾向である。学校に行く日数が少なくなると、学力低下が心配である。そのあたりも含めて、先生方が子どもたちとしっかり面と向かって話し合い、対応できる時間を長くとれるようにということで、小中学校の講師の先生方、そして支援員、補助員、またはスクールソーシャルワーカーなど、いろいろな相談業務をする人たち、また手助けをする人たち、全部で 51 名を丸亀市独自で新たに雇うというプロジェクトを行っている。今現在、40 数名を雇うことができている。10 月ぐらいには 51 名になることを目標に、今教育委員会の先生方がお願いをしまわっているところである。

一番の難点は、予算を組んでもやってくれる人がいないということ。1 年前に丸亀独自で人をたくさん雇うという話をしたら、予算をつけてもやってくれる人がいないと教育長が言われた。それだけ学校の仕事が大変な状況になっている。退職した先生方にお願いと、退職後は違う仕事に就くと言われ、若い人の講師のなり手も少なく、受けてくれない。また、先生方を助けたり、障害のある子どもをサポートしてくれたりする補助員や支援員は、資格がなくてもできるが、なり手がいないと言われている。教育長をはじめ、教育委員会の先生方が、去年の夏から個別にお願いしていった、今に至っている。

目的は、子どもたちに向き合う時間をしっかりと取れるようにすること。また、先生方にも働き方改革として、少し余裕を持ていただきたいと考えている。これも言うなれば人づくりということである。

その他、市では 4 月から組織改編として協働推進部を創設した。協働推進部は、力 3 つの「協」に「働く」。協力して働くという意味を込めて、協働推進部を作った。

協働推進部の目的は、市民の皆さまと市が一緒になって、誰もがまちづくりに参画できる持続可能なまち、元気なまちを創っていくための協創にある。まちづくりは市だけでは限界があるので、協力をお願いする。

もう 1 つは、いろんなコミュニティや自治会から、担い手不足という声がたくさん上がっていることについて。元気なまちづくりには、どうしても「人」が不可欠である。能登で大地震があったが、丸亀市は七尾市に、1 月 5 日から 7 月 1 日まで常時 3 人の職員を派遣していた。土日・祝日、お城まつりをやっていたゴールデンウィークもずっと 3 人体制を維持し、七尾市からは大変喜ばれた。

また、職員からは多くの報告を受けた。大規模災害時は、地域の人たちが助け合って避難所で生活をする、少し危ない状況のところを助け合うなど、そういった部分もたくさんあった。そういう意味でも、南海トラフ地震の大規模災害の備えとして、自治会や自主防災組織、コミュニティといった地域住民の共助が、ますます重要になってきていると感じている。要は地域力を一層高めていくということである。

丸亀市としては、担い手がないという状況を分かっているながらも、今言ったような形で地域をしっかりと盛り上げていきたい。そして、安全なまちをつくっていくことに取り組むべく、「まちづくりは人づくり」に焦点を置くことにした。

これまでは、加入世帯 1 件当たり 300 円の補助金を各自治会に出していたが、この 4 月からは倍の 600 円にした。少額ではあるが、私たち行政の意気込みと捉えていただければと思う。そして自治会長はポケットマネーを出す機会も多いと思うので、自治会長手当も少しだが増額させていただいた。

以上、今年の重点プロジェクトについて説明させていただいた。

(事務局長)

それでは今の説明について、ご質問等があればお願いします。

(所長)

我々のところは若い人が少なくて非常に困っている。そこで、市の地域担当職員とコミュニケーションを取りながら、まちづくりについて話をしていければと考えている。我々の力だけではなかなか難しい。城北小学校の場合、PTA が減っていることもあるので、市の協力をお願いしたい。

(市長)

地域担当職員のあり方については、この間も市長と語る会で「地域担当職員にもっと積極的な意見を言ってもらいたい」、「地域担当職員にもっと市の情報を遠慮なく言ってもらいたい」という要望を受けた。それは持ち帰って、地域担当職員の会できちんとやっていこうと思っている。

私も市長になる前は、川西コミュニティで役員をずっとやっていた。市の情報を役員会等であげてくれるだけで大分違うと思う。地域担当職員はあまり意見を言わないと思われる。役員会の中で市職員の立場で意見も言う形をとっていきたい。

(男性)

石垣の話があったが、終わりはいつくらいになるのか。

(市長)

令和 10 年 3 月の予定。

(男性)

一向に石垣を積まないと思っていたので、ほっとした。

(市長)

最初は、全部の工事が 5 年で完了するということだったが、6 年経ってようやく積み上げるところまできた。想定では 6000 個の石垣と言っていたが、実際は 1 万 1700 個出てきた。地中まで石垣を積んでいたことが新たに分かり、これが 31 メートルあった。大阪城に次ぐ 2 番目の長さである。

(会長)

いろいろな工事が遅れている。市民会館も 2026 年になると聞いている。

(市長)

5 か月遅れると発表した。ひとつは、材料がなかなか見つからない。もうひとつは、働き方改革により、建設業も土日が休みになり、残業時間についても国から徹底した指示がある。働く時間を短くしても人がいれば大丈夫だが、今は人手も不足している。資材不足と人手不足、そうなれば先ほど話をした学校関係の多くの建設にも影響があるのではと、少し不安に思っている。

(会長)

当初、令和 7 年から新市民会館が稼働するということで、行政改革推進委員会で私がそれは無理ではないか言ったところ、職員は絶対に大丈夫と答えていた。知らない間に令和 8 年の春になって、また 5 か月延期になる。今、事情をお聞きしても仕方がないと思うが、投資的な建設費 200 億円の中に、市民会館の費用も含まれているか。

(市長)

含まれている。最初に令和 7 年度にできると言っていたのは、お城のすぐ前に小さめの市民会館を造るという予定で進めていたときのことで、私が市長になってから、客席も大きくゆったりとしたものにし、生涯学習センター機能も持たせるということで、建設場所を変更した。その計画変更で約 10 か月延びた。

(会長)

私は、その新構想ができた後に、絶対に無理だと言った。それでもプロがいるから大丈夫と、職員は話していた。私も建設関係の仕事をしているから、当時 1 年は遅れるだろうなと感じていた。なぜこんなことを言うのかというと、私ども連合自治会の会長が全国の会長になり、新しくできる市民会館で全国の自治会長の会を開催したいと考えているから。話は聞いているか。

(市長)

聞いている。

(会長)

よろしくお願いします。

3. 事前質問についての意見交換

(会長)

デマンド交通を郡家地区で試験的に行うことに関し、令和 5 年度から準備なども含めて 2000 万円の予算で始まった。令和 6 年度は 2300 万円。私どもの買い物支援サービスは、年間 35 万円である。私は月 35 万円の間違いではないかと 3 回聞き直した。我々も高齢で、運転手も 70 歳以上が 8 割から 9 割となっていて、もし何かあったときは責任もある。

デマンドを本格的に導入するのだろうか。そして、1 つの地域で 2000 万円以上のお金が本当に必要なのか。地域によって 2300 万円と 35 万円の違いは何か。市民に対しても失礼ではないか。

前回も話したが、城北地区は古い町なので大型スーパーがない。風呂屋もなくなった。いろんな条件で、出かけたくても出かけられない人がいる中、その手助けがない。私どもの買い物支援では、丸一日運転手をやっても食事代も出ないので、コミュニティの方で何とかしようとした。

この4月から、ようやく一人当たり1日500円までの費用は見てもらえることになった。お金がかかるからやめていた携帯電話も、私が個人的に契約することで、年齢割などで端末が1円で購入できた。いろんな努力をしているが、シルバー人材センターに受付を頼むと、月35万円で本当に大丈夫か、それはこれからやってみないと分からないが、非常に厳しい状況である。

一方、郡家地区のデマンドは費用がどういう形で使われているのか、当初の2000万円はもう終わっているはずなので、その内訳をお聞きしたい。

(大関担当長)

郡家校区で、令和5年10月1日から実験を開始している。社会実験をするにあたって運行エリアをどこにするかについては、まずタクシーが主たる事業場所にしていない地域を前提にした。そして、地域で移動支援の取り組みがない、コミュニティバスの路線が住宅地から離れている、社会実験になるのである程度データ数が必要ということで、一定の人口がある場所、また、こういった使われ方をするのかも確認したいので、スーパーや金融機関、病院など、一般的に日常生活でよく利用する施設があるエリアということで、郡家校区を選定した。

利用状況については、昨年10月に始めたときは月80人ぐらい。令和6年4月には月250人ぐらいの利用状況で、利用された方からはすごく使いやすいと高評価をいただいている。ただ、月250人という利用人数は、担当課として考えている利用人数の基準に比べ、かなり少ないと感じている。

デマンド交通は琴平町でも行っており、9000人ぐらいの人口に対し、月1600人ぐらいの利用がある。そこまでは言わないが、郡家地区の人口1万3000人に対し、250人はかなり少ないと思っている。今後、利用者がどのくらい伸びていくか状況を見ていきたい。

令和5年度の予算2000万円の内訳については、10月からスタートしたので、年度で考えると半年間のものになる。2000万円の予算のうち、実際使ったのは1200万円ぐらい。その中身としては、初期のシステム構築費用、人件費、毎月のシステム使用料となっている。それに対し、今年度は2300万円の予算を要望させていただいた。内訳は、コールセンター含めたAIシステム使用料が年間で約530万円、人件費が年間1400万円、その他の車両の燃料代や点検費等の車両関係が約370万円、合計で2300万円となる。

こういった状況で、利用者は月250人と先ほどお話ししたとおり。月に大体1回利用する人、往復になるので利用回数的には2回になるが、そういった利用をしている方が30人ぐらい。週に1回程度が2人。本当によく利用している人が少ないということが分かってきた。利用目的としては、買い物と通院が全体の半分以上。あとは金融機関や外食。以上がデマンド交通の現状である。

質問いただいた地域の高齢者移動支援施策との乖離についてだが、移動支援の取り組みは国の方から運転手に対する報酬を出せない、実費程度しか出せないという縛りがあって、運転手さんの確保にかなり苦慮されている状況は聞き及んでいる。

そうした中、コミュニティの皆さまの努力のおかげで、各地区の高齢者がお出かけできていることに関して、市としてもものすごく感謝している。実費だけしか受け取れないというところに関して、徐々にではあるが、国も経費の範囲を広げる動きを見せている。

移動支援に関しては、都市計画課ではなく高齢者支援課の担当になってしまうので、私も詳し

くお話できないが、どうしていけばいいのかという具体策について、現時点で提示できるものがなく、そういったところと一緒に考えていかなければいけない。

市のデマンドの現状に関してはお話したとおり、市の想定と現状に乖離している部分があるので、次年度以降どうするかは、まだ残りの期間で検証していきたい。公共交通として多額の予算を投じていくのがいいのか、それとも高齢者の移動支援施策に注力してピンポイントで支援をしていくのがいいのかは、市全体として考えていかなければいけないと感じている。

(男性)

デマンド交通は毎日か。

(大関担当長)

はい。

(男性)

それで月 80 人はたいした人数ではない。今はその倍ぐらいになったという話は聞いた。

私どもが買い物支援を始めるとき、地元タクシー会社の仕事の邪魔をしているのではないかという心配があったので、会社と話をして了解をもらった。もし、私たちが間に合わなかったときには、タクシーを出してもいいということではあるが、通常料金である。

これからは、片道だけでも通院をサービスに含めるように考えていて、アンケートを取ったところ、ぜひお願いしたいとのことであった。中には近くでも歩いて行けない人がいる。病院から 100m くらいのところに住んでいる人が通院にタクシーを呼んでいる。コミュニティバスはバス停が減って、本数も減っている。これから、もっと困るのではないかと思う。

私たちが運転手が足りなくなったらお手上げになる。城北地区でもデマンドをやってくださいと手を挙げていいのか。今、移動支援をやっている 7 コミュニティが、うちもやめたというようなことになったら、同じサービスを維持しようとするとかかなりの費用になる。高齢者支援課と都市計画課の垣根を越えて相談し、何かいい案を出していただきたい。このままでは不満が募るばかりである。もし事故を起こしたら誰が責任取るのかというと、私たちである。お金で済むならいくらでも責任はとるが、人命がかかっているのですはいかないので、真剣に考えていただきたい。何とかお願いします。

(市長)

デマンド交通は、全国的に取り組もうという流れがある。実験をする場所などいろいろ考えて、郡家地区が不便であるのに人口が多いというところであったので、郡家地区で実施した。

しかし、説明したように、利用人数はかなり下回っている。何が悪いのかという分析も今からやっていくが、費用も年間 2300 万円ぐらいかかる。もちろん成功すれば、市としてもどんどん広げていこうと考えていた。今の時点では、成功とは言えないような人数なので、そこをどう考えるかというのは専門家等も含めて、また市民の皆さんからの意見もいただきながら真剣に考えていこうと思っている。交通の上手くいっていない部分はこれからもっとひどくなっていくので、どうするのが一番正しいのか探っていこうと考えている。

(男性)

乗るのは 1 回くらいか。

(大関担当長)

300 円。

(男性)

往復 600 円。

(大関担当長)

はい。

(男性)

成功するような話、前に進むような話をしてほしい。いろんなところでデマンドをするとなると相当の費用がいる。真剣に考えてほしい。

(大関担当長)

今 A I を使った最先端のシステムを構築して進めているが、今の利用状況であれば、コンピュータを使ってまでやる必要はないのではないかとということもある。そこに年間 5～600 万円かかってしまうので、お出かけ便みたいな感じの運行の方が圧倒的に安くすむ。デマンドだからダメということはなくて、やり方がネックになっている。70 歳ぐらいまで健康な人は、丸亀市であれば車に乗っているんで、そういう人たちをターゲットにしてもデマンドは意味がない。それ以上の 75 歳、80 歳以上の免許返納した方、身体の不自由な方の移動が各地域で課題になってきている。公共交通として莫大な費用をかけてやるのか、それとも地域の移動支援に対して不足している運転手と呼んでくる、その人件費に対して補助を出すなど、いろんなやり方がある。都市計画課としては公共交通を担う部署であるので、今のデマンドのやり方がおかしいなら、他の手法で別の実験をやってみようという取り組みをしながらも、市としては交通弱者に対してどうしていくか横断的に考えていかななくてはいけない。

(男性)

運転手が高齢化している。ゆっくり検討する時間はないと思う。早急にやることが大事。

(男性)

私も 8 月 29 日で 78 歳になる。人を乗せる運転はやめた。もう一人同じような方がいる。もうすでに運転手が減っている。75 歳以上の方は、できるだけ免許証返納しましょうという話に逆行している。そのあたりを考えてほしい。

(事務局長)

質問票の 1、東汐入川けんこう公園の日除け設備の設置について説明をお願いします。

(男性)

約 4 年前から提案している、けんこう公園の日除け設備については、今回やっと 1 か所設置していただけると聞いている。そのスケジュールと、どういうものを市の方から提示していただきたい。

非常に暑く危険な状態が続いており、熱中症アラートが発令されている。けんこう公園は人気のある公園であり、土日にはいろんなところから人が来ている。

ベンチはたくさんあるので、全部に屋根を設置すると相当の費用がかかる。公園東側の遊具のあるところから少し南のところに空いている場所があるので、写真にあるような形で人がこれだけ入るようなところを作っていただければと思っている。市外、県外から見学に来られても、すばらしい、健康面を考えた公園だと言っていただける場所にしていただきたい。未来へ向けた

まちづくりということで、ここが非常に大事だと思う。前に進んでいただいているのでありがたいと思っている。

(市長)

すでに業者への発注は済んでいて、憩い広場のベンチのところに設置すると聞いている。建築確認申請から県の許可を得るまで数か月がかかるというのがある。県に問い合わせてもなかなか返事が返ってこないで完了時期については、はっきり決まっていない。いつになるか分かり次第、担当から連絡を入れるようにする。その代わりに、一時的な日よけ対策として、テント式の屋根を仮設という形になるが8月中に設置するよう担当課に指示している。

(男性)

台風が来ているので、テント式でいいものか。十分気を付けてもらいたい。

(男性)

どんな形になるのか聞いているか。

(男性)

市の方からは一言も聞いていない。

(男性)

壁を付けずに日除けだけ。普通の住宅でも3ヶ月かからない。

(男性)

屋根が付いたら時間がかかる。屋根のところに仮のテントを張ることで進めている。

(男性)

上の写真のものは、風が強いところでは無理。イメージ的には下の写真のものがいい。コスト的には問題ないのか。

(市長)

日除けの屋根の件は担当課には指示したが、お待たせしていることについて申し訳ないと思っている。スケートボードパークやバスケットボールコート、野球場をつくる時も屋根は必要といったが、つくられなかった。今必要なものに関しては絶対予算を引っ張るからと言ってもできない。

(男性)

法的な問題があるのではないか。

(男性)

いずれにしろ、テント式については8月中に指示してくださっているということで、お願いする。

(事務局長)

2点目の富士見町瓦撤去跡地の整備について、説明があればお願いする。

(男性)

昨年度、長年の懸案事項であった瓦の撤去と樹木の伐採を概ねしていただいたが、あえて議題にさせていただく。秋から冬にかけて落ち葉が住宅に飛んできて困っている。大きなものは切っただけだが、まだ完全ではない。それと、雨が降るとぬかるむので舗装してほしい。雨が降

ると水たまりができる。また、法面も不十分である。強風が吹くと、瓦の残骸が巻き上がる可能性もある。住民にとっては長年汚い場所に住まわされていたので早急に対応していただきたい。また、我々には関係ないが防火水槽を撤去していただきたい。再度お願いする。

(市長)

まず樹木は、8月11日までに伐採撤去すると聞いている。

(中原室長)

本日現場を確認したところ、大きい木は伐採していたが、背の低い木は少し残っている状況だった。木の伐採は、質問をいただいた直後に行ったと思う。

(男性)

土が盛り上がった状態で伐採したから、土を除けると切り株が出ている。水たまりもあるし、雨が降ったら足元がぬかるむ。

(市長)

道路の整備舗装については、今の時点で予定はない。空き地として今後どうするかは検討したいと思う。まずは安全を確保する。法面の整備は検討させていただく。瓦は土が混じっているのではなかなか手をつけられないとのこと。水槽の撤去は、今は木の枠で囲っており、それをどうするか検討させていただきたい。どうしてあそこを買ったのか。

(中原室長)

元々は都市計画道路の計画があつて購入したとは聞いている。

(男性)

道路を通す予定がなくなった。

(中原室長)

瓦が残存物として残っていて、そのまま来ている状況。法面については、財務課が7月10日の大雨が降ったときに確認した。どこを確認したかまでは聞いていないので、先ほど言われていた法面の近くも集中的に見てもらおう。財務課は普段気にかけて、現場を見に行っているそうである。水がたまる場所も教えていただいたので、財務課には雨の日にまた確認してもらい、今後どのようにするか検討してもらおう。

(男性)

売却はないのか。

(中原室長)

残存物があるので難しい。

(市長)

市としては売りたい土地がたくさんあるが全然売れない。

(男性)

近所の方で買いたい人がいた。

(市長)

一部ではなく全部買っていただかないと、残りが売れなくなってしまう。

(男性)

財務課に言って、もう少しきちんとした値段を出すべき。市はあまりいい土地を持っていない。

(男性)

当初の市の購入価格より低い価格では売れない。近くにある土地はきれいな形の土地であるが何年も売れない。市の購入価格より高い値段を設定しようとするから売れないのではないか。

(男性)

買った時が高いから、利益とか金利とかをさらに上乗せすると絶対に売れない。

(女性)

この件に関しては、全部検討ということか。

(市長)

樹木は伐採して撤去した。道路整備舗装は予定なし。水たまりの箇所の解消は、担当部署から7月10日の雨のときは水たまりがなかったと聞いている。

(中原室長)

見ている場所が違っていたかもしれないので、再度確認する。

(男性)

市の人と連合自治会の会長、一緒に現場を見て確認してほしい。

(市長)

法面は何らかの形で整備を検討する。残っている瓦は土が混じっているなので、整備に費用と時間がかかると思うが、検討させていただきたい。防火水槽は、木の枠で囲っているので現状のまま。ただし、安全確認は行っていく。

(男性)

穴が開いているところは鉄板を敷いている。

(中原室長)

ボルト打ちもしている。

(事務局長)

最後に、入浴施設がない現状への対応について、補足説明をお願いします。

(男性)

昨年も提案させていただいた。現在、家に入浴設備がない方がたくさんいる。令和6年4月に市内34人に無料入浴券を配っているのが、そのうち城北地区は22人。ぽかぽか温泉に入浴ができるようになり、非常に助かっている。ただ、城北地区からぽかぽか温泉に行くとなると結構な距離がある。自転車で行っている方が多くいて、中には歩いて行っている人もいる。夏暑いときにぽかぽか温泉まで自転車または徒歩というのは厳しい状況である。城北地区で無料入浴をもらっている方が22名いると話したが、それ以外に、ぽかぽか温泉まで行けないので無料入浴券をもらっていない方もいる。その方は、宇多津の四国健康村まで歩いて行っている。

そこで、難しいと思うがボート場の近くに入浴施設を作ることはいできないか提案させていただいた。今、モーヴィなどができ、多くの家族が利用されている。市外の方も多く利用していると思うので、ボートレースのPRにもなる。天然温泉や入浴施設など、ボートの敷地内につくっていただきたい。

簡単にはいかないのは分かっているが、日本財団など民間企業を利用できないか。城北地区に入浴施設がなく、これまでいろいろ意見を出していただいたが、鳴門のボートレース近くにある

「あらたえの湯」のようなものがないか提案させていただく。駅から丸亀ボートまで無料のバスが出ている。コミュニティバスも利用できるようになっているので、交通の手段もある。

夏の暑いときに 1 週間に 1 回お風呂に行けるかどうかという方がたくさんいる。難しいと思うが、検討をお願いしたい。

(市長)

鳴門のボートレースのすぐ横の入浴施設には、たくさんの方が来ている。宇多津にある健康ランドと同じような施設。

入浴施設のことはボートレースの管理者にも全部話をしたが、今の時点では、その予定はないとの返事は受けている。モーヴィとグリーンは大変好評で予約制にするぐらい、特に土日はたくさんの方が来てくれている。道路の交通量などもしっかり考えながら進めないといけないので、大掛かりな温浴施設は少し難しいと思う。

(男性)

大きくなくても、ぽかぽか温泉程度でいい。要は入浴ができればいい。そこへ至るまでの交通網があれば、お金を払って四国健康村まで行くよりはいい。今言ったキッズパークの方は駐車場がいっぱいで、昔のロクがあった辺りに施設を作れないか。

(市長)

そこには別のものを建てることが決まっている。

今のところ予定はないが、そういった提案はありがたく受けとめる。

(男性)

ボートレースにつくってほしいというのは、入浴施設のない人が何とか利用できる方法はないかいうことで出てきた提案である。坂出は銭湯があるし、多度津は社協の建物の中に入浴施設がある。丸亀は南の方にはあるかもしれないが、この辺にはない。自分に置き換えて考えたら、1 週間に 1 回しかお風呂に入れない状態で健康な生活を維持できるのかと思う。そういう人が城北地区も含めてたくさんいる。

なので、ボートレースも含めて何かいい方法がないか考えてもらわなければ、高齢化でそういった人がますます増える。

(男性)

ジョイフィットはお風呂だけでも入れるので、そういうところと交渉もできるのではないか。

(男性)

ホテルもあるので、市の方から話していただければ助かる。ボートレースにつくるとなれば何年もかかる。どこかにあるものを利用するのが一番。

(市長)

昨年、担当部署に何かいい方法はないかと相談したところ、飯山総合保健福祉センターであれば可能かもしれないということだったが、地理的に遠く、利用する人がいないという話になった。

(男性)

あちらの人はバスに乗っていけるかもしれない。

(市長)

飯山・綾歌もコミュニティバスが通るところはごく一部で、こちらと比べれば不便さは桁が違

う。昔から住んでいるので、そういうものだと思っている。

今のところいい案は浮かばないが、本当はここにデマンド交通があればいい。

(男性)

高瀬の温泉はバスが回っている。この課題については毎年でている。検討を続けていただきたい。

(市長)

銭湯のほうで復活する業者がいたら一番よかった。十分承った。

(男性)

先ほど話に出たのは、ジョイフィットという土器にあるフィットネスクラブ。ただ、会員にならないと利用できない。

(男性)

先ほど言っていたように、ホテルのような今ある施設を利用できるように市が働きかけてくれば、ありがたい。

(中原室長)

日帰りをしているところがあればいいが、オークラホテルもそうであったように、宿泊者向けのサービスなので、どうしてもそこがネックになる。

(市長)

日本財団については、温泉施設をつくるということはない。

ただ、SGボートレースメモリアルというレースが8月27日に開催され、この想定売り上げが180億円。このレースをよくいただけたと思っている。6年ぶりのSGレースである。もう1つ、来年の5月にオールスター戦というSGレースが来る。これは昔の笹川賞という一番格上のレースで、7日間のレースでおそらく200億ぐらいになる。ちなみにその売り上げの10%ぐらいが収益になる可能性があるので、この夏は約18億円、来年は約20億円。旧笹川賞、オールスター戦は32年ぶりで、丸亀開催は2回目。余談であった。

(事務局長)

入浴施設については、いろいろな方法で検討していただきたい。よろしくお願いします。

以上で当初予定していた質問については意見交換ができた。

(会長)

いろいろ意見が出て、即答できるもの、検討するもの、いろいろあると思う。私たちの方も、これからもっと市と話し合いができればと思っている。地域担当職員の職ができてから7、8年。担当職員の方を集めて講演会をやらせていただいたこともあった。一生懸命やっていたので、市との繋がりはできている。ただお願いしたいのは、何でもかんでも市からコミュニティの方へ持ってこないでいただきたい。見てのとおり、コミュニティも皆さん高齢であり、また、長い間働き定年退職した人は、こういう団体に入ってきてもらえない。若いうちから声を掛けていても、このような状況である。城北校区で定年退職を迎える人に対し、コミュニティに参加いただけるよう、市にも働きかけをお願いしたい。

本当に今日は言いたいこと言わせていただき申し訳ない。一生懸命みんなで協力していくので、またこれからもよろしくお願いします。